



令和5年7月20日

園長通信

AIとうまく付き合いながら生きる

園長 安達 譲

yuzuru@hijiri.ed.jp

本日で1学期が終了しました。年度の始まりの1学期はこども達にとっては入園や進級で不安になる姿が4月は多く見られますが、少しずつ園に馴染んで(?)きて楽しい場所が変わっていったように思います。そして、楽しくなってきた背景にはご家庭の支えや先生達のがんばりや友達の存在があったからこそと思います。

その一方で、7月17日付けの日本教育新聞の1面には児童・生徒の4月の自殺が過去最多だったという大変悲しい記事が載っていました。文科省ではこのような状況を受けてGIGAスクール構想で整備したPCを使って児童・生徒の状況を把握することが有効との対策を打ち出していますが少し違和感を感じてしまいました。確かに子どもの状況を把握することは有効だとは思いますが、子どもが信頼できる人ではなく自分の状況を端末に打ち込む姿を想像するとなんとも言えない気持ちになりました。

最近私自身はChatGPTを使う機会が多くなりました。特に保育関係の団体や保育関係の雑誌に依頼されたテーマが「こども家庭庁発足」とか「不適切保育への対応」というようなテーマの場合、これまでは文科省や内閣府のHPに載っている答申等に目を通してから自分なりに現場の園長の視点で書いていたのですが、そのような下調べの時間はAIを使用することにより圧倒的に短縮されました。宿題に出た読書感想文をAIに書かせた中学生の気持ちが分かるような気がします。しかし、使うようになってから感じることの1つは、自分の専門分野に関することなどで使った場合に「そうかなあ?」と首をかしげることがしばしばあることです。自分がよく知っていることなので回答のおかしな点に気づきましたが、予備知識を持たずにこどもが使う場合にはやはり注意が必要かと思います。また、考えを整理する際にはとても有効なのですが、本当に自分の考えを深めるには園での子どもや先生たちの姿や声や息づかいからの実感を持った上で、自園や他の園の先生、あるいは大学の先生方と話し合っているときに、ふっと身体の中に落ちてくる感覚を持たた時のように感じます。これからAIもさらに進化していくことは間違いありませんし、使い方のルールも整理されてくるでしょうが、私のような人生の終盤で出会った者とはちがって、こども達はこれからの人生ですっとつきあっていくこととなります。そのAI等との付き合いの中で頼りすぎず、振り回されず、うまく使いこなしながら人生を歩んでもらいたいなあと願います。そのためにはどうしたらいいのか、その正解は分かりませんが、こども達が家庭を離れて初めてママやパパ以外に心から信頼できる「先生」という存在と園で出会い、その信頼関係に支えられながら「友達」という存在と出会わせてあげることが間違いなく大切なことです。物の取り合いや思いの違いなどのトラブルを経験することもあるかと思いますが、それでも友達と一緒にいろんなことをするのが楽しいという経験を積み重ね、自分のことも大好きだけど友達も大好きになってくれたらなあ、自分とみんなはそれぞれ違うけどお互いにいいところを認め合う中で子どもも大人も自分らしく居られたらいいなあと願います。

AIとこれから長く付き合っていくこども達だからこそ、夏休みには五感を駆使した「もの」との出会いを大切にしてください。「そんな蝉のぬけがら捨わないで!」とか言わないで(笑)。そして長くなくてもいいので、わが子との思い出に残るいい時間をお過ごしください。私たちも研修でしっかり学んだり、しっかりリフレッシュして2学期に備えたいと思います。

CISV11 歳キャンプ

この夏休み、園で4年振りにCISV (Children's International Summer Villages) の11歳ビレッジが開催されることとなりました。CISVは独立した非政治的で非営利の民間団体で、第二次世界大戦直後、アメリカの心理学者ドリス・アレン博士の「平和構築の核は子どもにある」という確固たる信念のもと、1950年に設立されました。プログラムの実施や組織運営はボランティアによって行われています。国際事務局は、UNESCOに協力して活動しているNGOとして認められていて、毎年世界各地でプログラムが開催されています。

今回は2019年以来、4年ぶりでひじりでのキャンプは3回目となります、そもそものきっかけは私が40年近く前にリーダーとしてスウェーデンのキャンプに参加したことです。今回の参加国はカナダ・ドイツ・スペイン・オランダ・スウェーデン・フィリピン・ポルトガル・ベトナム・アメリカ・日本の各国の11歳男子2名女子2名リーダー1名とスタッフ、JC(お手伝いの高校生オーストリア・イギリス・スペイン・タイ・日本)等、子ども40名大人20数名です。期間中にHCの子どもたちとの交流も予定されています。にじいろ保育園の子どもたちやHCの子どもたちとはお互いの生活を分けるところは分け、交流するところは交流しながら過ごしてもらいたいと思っています。

私自身は30年前にこのプログラムに参加することになり自分自身の視野が広がり本当に貴重な経験をさせていただきました。写真は24歳の私ですがある日のプログラムではくじ引きをして子ども達は自分の国以外で(アフリカ、ヨーロッパ、アジア、北米、南米等)の生まれたという設定のもとゲームや食事を通して教育の機会の不平等や食料・水の状況を学んだり、男女で逆の服装、化粧をしてお互いの立場を経験してみようというプログラムもありました。

そしてなにより一緒に行った当時11歳の子どもたちが本当に素敵な大人に成長してくれていることが嬉しくて、また、世界の平和に少しでもつながればと願い、協力することにいたしました。保護者の皆様、特にHCご利用の方にはご不便おかけすることもあるかと思いますが、どうぞこの活動の趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

また、8月20日の午後1時半~4時(予定)でオープンデイをしますので、ご興味のある方はのぞきにきてください。

